

1 事業名 学校長期自然体験活動指導者養成研修会（全体指導者）

2 必要性

平成23年度完全実施になる新しい小学校学習指導要領では、体験活動の充実が改訂のポイントとして示され、小学校で1週間程度の集団宿泊活動を行うことが望ましいことが掲げられた。小学校が行う1週間の自然体験活動において、教育効果の高い自然体験・生活体験活動の機会を提供するために、プログラム計画立案の助言、活動時の全体指導や活動の様子把握と助言、事業評価の助言などを行う指導者を養成することは国の施策であり、国立青少年教育施設の使命である。

3 趣 旨

新しい学習指導要領の下、文部科学省がすすめる小学校の長期自然体験活動（1週間程度）を支援するため、長年体験活動に携ってきた青少年教育施設の教育機能を生かして、その指導者の養成事業を行う。

4 後 援

島根県教育委員会

5 期 日

（第1回）平成21年 8月27日（木）～30日（日）3泊4日

（第2回）平成21年 9月24日（木）～27日（日）3泊4日

6 参加者

（1）募集対象・人数：青少年教育関係者、学校教育関係者、その他自然体験活動に興味・関心のある方で、小学校長期自然体験活動の全体指導者（20歳以上）として活動する意思のある方・各回20名

（2）参 加 人 数：第1回16名（修了者9名）第2回28名（修了者24名）

（3）参 加 者 分 析：青少年教育施設職員1名、公民館等社会教育施設から延べ9名、学校教員5名、行政から延べ8名、NPO法人など民間団体から延べ5名、学生が延べ9名、個人参加が7名あった。

（4）参 加 者 地 域：島根県内からの参加者が延べ39名、広島県内からの参加者が延べ5名、鳥取県内からの参加者が4名、岡山県内からの参加者が1名であった。

7 講師等（第1回、第2回とも共通）

近藤 剛 氏（鳥取短期大学准教授・鳥取県キャンプ協会会長）

古瀬 浩史 氏（自然教育研究センター 取締役）

大田市消防本部救急救助係員

国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職

8 参加費 各回 5,410円 (食費10食分・シーツ等洗濯料)

9 事業の内容

(1)事業の特色

「学校教育における体験活動の意義」「教育課程と体験活動の関連性」「安全管理」「プログラムの企画立案」「自然体験活動の技術」「体験活動の指導方法」等、文部科学省が示す共通カリキュラムに沿って、実践的な講義・演習を行う。演習においては、大山隠岐国立公園内に立地し、自然豊かな三瓶山のフィールドを十分に活用した活動を行うこととする。

(2)プログラムデザインと企画のポイント

- ・ 座学中心ではなく参加型、参画型のプログラムになるように、講師の選定からプログラムの作成まで一貫して心がけた。
- ・ 参加者同士、また講師と参加者が、情報交換や交流を深められる場を交流会としてプログラムの中に位置づけた。
- ・ 指導者としての経験の有無を調査したところ、経験者と未経験者が同じ割合で混在していたので、講師の先生方に参加者の経験値のバラツキについて事前に伝えておいた。そのおかげもあり、講師の講義や実習・演習が内容の濃い、経験者でも未経験者でも意欲を持って取り組める内容になった。
- ・ 安全管理の講習5時間のうち2時間分はワークショップ形式で、当施設における看板プログラムである「グループワーク登山（GW登山）の安全管理」について実践的に行った。

(3)広報のポイント

- ・ 平成20年度未修了者への案内送付と電話による参加依頼を行ったが、未修了者の多くが教員と学生で、8月末、9月中旬の日程は運動会や教育実習と重なり参加が難しかった。また、平成20年度修了者の方に知人を誘ってもらおうよう依頼した他、鳥取県立大山青年の家が養成した補助指導者に案内を送った結果、2名の参加を得た。
- ・ 新たな広報先として、島根県内の放課後児童クラブ指導員に広報をし（島根県健康福祉部青少年家庭課に協力を依頼）指導員1名の参加を得た。今後は、放課後児童クラブ指導員のよう、日常的に学校と連携を行っている方を探して広報していく必要がある。
- ・ 文部科学省認定の資格が取れることを前面に打ち出した参加者募集案内を見て、島根大学教育学部の学生が7名参加した。



ペン回し、できますか？



GW登山における安全管理とは？



4泊5日のプログラム作成中

(4) 日 程

第 1 回・第 2 回とも共通

区分	全期：3泊4日			
月 日 時 間	1 日目 8月27日(木) 9月24日(木)	2 日目 8月28日(金) 9月25日(金)	3 日目 8月29日(土) 9月26日(土)	4 日目 8月30日(日) 9月27日(日)
6：30		起床	起床	起床
7：00		朝のつどい・清掃・朝食	朝のつどい・清掃・朝食	朝のつどい・清掃・朝食
9：00	受付（10:00～10:30） 開講式 ねらいの共有化	安全管理 （実習：救急救命法） 3 h	体験活動の指導方 法 1（講義/実習） 3 h	自然体験活動の 技術（演習） 3 h
12：00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13：00 15：00	学校教育における体 験活動の意義(講義) 2 h 教育課程と体験活動 の関連性（講義） 2 h	プログラムの企画 立案 1（実習/演習） 2 h 自然体験活動の技 術（実習：野外炊飯） 2 h	体験活動の指導方 法 2（講義・実習） 3 h	ふりかえり 閉講式 解散
17：30 19：00	夕食・入浴 安全管理（講義） 2 h	プログラムの企画 立案 2（実習/演習） 3 h		
21：00	入浴・休憩・就寝準備	入浴・休憩・就寝準備	入浴・休憩・就寝準備	
23：00	就寝	就寝	就寝	

講義、実習、演習の内容及び講師

講義：学校教育における体験活動の意義

- ・青少年を取り巻く社会的環境や青少年の現状等を踏まえ、青少年の現代的課題と青少年問題について理解する他。

講師：鳥取短期大学准教授・鳥取県キャンプ協会会長 近藤 剛 氏

講義：教育課程と体験活動の関連性

- ・学習指導要領における体験活動の位置づけを理解する他。

講師：鳥取短期大学准教授・鳥取県キャンプ協会会長 近藤 剛 氏

講義：安全管理

- ・体験活動における安全管理の基本的な考え方を理解する他。

講師：国立三瓶青少年交流の家事業推進室長 錦織 修一(第1回)

国立三瓶青少年交流の家企画指導専門職 戸田 美之(第2回)

実習：安全管理（救急救命法）

- ・救急救命法の実習（AEDの使用法を含む）を行う他。

講師：島根県大田市消防本部救急救助係

実習/演習 プログラムの企画立案

- ・自然と人、社会、文化のかかわりや青少年教育施設との連携、地域の人材の活用等、企画立案時に留意することを理解する他。

講師：国立三瓶青少年交流の家企画指導専門職 戸田 美之（第1回）

国立三瓶青少年交流の家企画指導専門職 重田 幸輝（第2回）

実習：自然体験活動の技術（野外炊飯）

- ・自然の中で生活・活動を行う上で必要とされる基礎的な技術を習得する。

講師：国立三瓶青少年交流の家企画指導専門職 八幡 明

演習：自然体験活動の技術（自然観察他）

- ・自然の中で生活・活動を行う上で必要とされる基礎的な技術を習得する。

講師：自然教育研究センター 古瀬 浩史 氏

講義/実習 及び：体験活動の指導方法

- ・人間関係をつくることや環境保全に興味・関心を持つ事など目的に応じた指導法を理解する他。

講師：自然教育研究センター 古瀬 浩史 氏

(5)運営のポイント

- ・受付後全員が揃うまでの間、プログラム体験とアイスブレイクを兼ね、当所で人気の創作活動&仲間作りのプログラム「カプラ(フランス製の積み木)」を体験してもらい好評であった。
- ・3泊4日の研修なので、それぞれのプログラムが長引いて次の活動に支障を与えたり、時間に追いたてられるような感じがしないよう、ゆったりとした運営かつ時間の順守を心がけた。
- ・3日目には講師との交流会及び参加者同士の情報交換会を入れたり、温泉ツアーを取り入れることでプログラムにメリハリをつけ参加者から好評であった。

(6)安全管理のポイント

- ・野外実習については、実際の活動を試行的に実施するとともに、直前にも活動場所の実地調査を実施して安全確認を行った。
- ・野外に出かける場合は、無線と携帯電話の両方を携行し複数の連絡手段を確保に努めた他、救急靴も携行し事故やケガに備えた。

(7)アンケートの主な記述

- ・まず、参加した人たちと交流して関係を深めること（アイスブレイクや自主交流会）そこから始まった研修だからこそ意見交換や思いの共有ができたのだと思います。
- ・今回の研修プログラムの流れは参考にさせてもらう点が多々あり、うれしく思いました。
- ・今回の研修会では、ただ自分たちでプログラムを作成するだけではなく、実際の指導者の立場と

してプログラムを自分たちで進行し（「体験活動の指導方法演習」の中で）、またそのプログラムを体験することができたので、これから役立つと思いました。

- ・ プログラムの企画立案は、昼からそれぞれが思いを込めて作ったものなので、班だけの発表に終わらず、時間はかかるが全体で発表した方がよい。翌日に全員の作成プログラムのコピーをいただいたが、やはり説明を聞いた方がよい。

9 成果と今後の課題

< 成果 >

- ・ 子どもゆめ基金オープンドリム事業として行った、島根県出雲市立今市小学校の全学年（児童数461名）が、学年に応じた宿泊数で集団宿泊体験活動を行う「セカンドスクール in さんべ」に、当施設で養成した全体指導者が、ボランティアとして11名参加した。実際に小学校が行っている長期の宿泊体験活動に参加することにより、活動に対しての具体的なイメージを持つことができたという好評であった。ボランティア参加された全体指導者には、主に登山の安全管理支援（3日間延べ10名参加）と、夜尿対策を主とした夜間対応（5日間延べ9名）を依頼した。4泊5日で看護業務を委託した方も、平成20年度養成した全体指導者の資格をもつ看護師であった。小学校が行う長期宿泊体験活動に対して学びを深め、意欲と理解のある全体指導者の資格を持つ皆さんがボランティア参加してくださったことは、小学校サイドからも安心して活動できたとの評価を得た。

< 課題 >

- ・ 時間をかけて練った4泊5日のプログラム案を、他の参加者に対して発表する時間（意見をもらう場面）をもっととってほしかったという声が寄せられた。「プログラムの企画立案」の実施方法を見直す必要がある。
- ・ 養成した自然体験活動指導者が実際に活躍する場面が少ない現実がある。養成した自然体験指導者が活躍できる場をより多く創り出していく必要がある。



目をつぶって！風の来る方向は？（感性の準備）

10 普及計画・普及実績

取り組みの様子を報告書（全体報告書）にまとめ、教育委員会や関係機関に情報発信することで、当施設や機構が行っている自然体験活動指導者養成研修の成果を広める。また、当施設で養成した全体指導者がボランティアとして関わった事業として、出雲市立今市小学校全学年による長期宿泊研修の取り組み「子どもゆめ基金オープンドリム事業 セカンドスクール in さんべ」がある。この取り組みをまとめた報告書の中でも成果として、当所で養成した全体指導者がボランティアとして関わったことを載せている。よってこの報告書を島根県内全ての小学校や、全国の青少年教育施設等に送付することで、当施設や機構が行っている自然体験活動指導者養成事業についての理解を深めることができる。

1 2 その他

成果の部分でも書いたが、「子どもゆめ基金オープンドリーム事業・セカンドスクール in さんべ」に、当施設で養成した全体指導者の方が11名、登山や夜間対応のボランティアとして関わった。自然体験活動指導者本来の役割での参加ではなかったが、「自然の中で活動する子ども達の生の姿が見たい」と多くの参加があり大変ありがたいことであった。ボランティアで参加された皆さんの経験は、今後必ず学校と連携する際に生きてくる貴重な体験だった。また、期間中、夜間看護を担当して下さった看護師も同じく自然体験活動指導者の方であり、多くの方に見守られて先述の事業を成功させることができた。平成22年度も「セカンドスクール in さんべ」の取り組みは続く予定なので、自然体験活動においてもプログラムの計画や運営に関わってもらいたいと考えている。

(担当 八幡 明)



野外炊飯実習



葉っぱのラインナップ！



自然の中で、同じ色探し



葉っぱジャンケン！はっぱっぱ



3泊4日、お疲れ様でした！



セカンドスクールにボラで関わる